

St. Luke's International University Repository

Meaning of participaton of memmbers in the health-promotion activities of F city

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 星野, 明子, 成木, 弘子, 飯田, 澄美子, Hoshino, Akiko, Nariki, Hiroko, Iida, Sumiko メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.34414/00014828

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



F市保健推進員活動における参加者の活動体験とその意味

星野明子¹⁾、成木弘子²⁾、飯田澄美子³⁾

要 旨

保健推進員が、保健推進員活動においてどのような意味づけを獲得したかを明らかにするために、保健推進員16名を対象にインタビューによる質的な因子探索型の研究を行った。

その結果、獲得した5つ活動の場「健康に関心を持つ場」「知識を獲得する場」「友人を獲得する場」「広く認められる場」「様々な人とふれあえる場」と、2つの意味づけ「発見の喜び」「関わりの中から得られる充実感」が抽出された。参加者である保健推進員が、5つの活動の場と2つの意味づけを獲得したことから、保健推進員活動は、保健行動を獲得させ、自己の存在を確認するといった特徴的な機能を持つことが考えられた。看護専門職は、こうした要素を持つ活動であることをふまえた上で、支援することが必要と思われる。

キーワード

地区組織活動 ヘルспロモーション 活動の場 保健行動 自己認知

I. はじめに

長寿社会において、人々の生活意識は、より豊かで様々なスタイルの暮らしを求める方向へ変化している。障害や疾病を持ちながら、在宅で快適に暮らすことは、サービスの充足していない現状では難しく、介護負担や、介護の担い手不足などの問題も指摘されている。こうした問題への対応として、地方行政は通所施設や在宅サービスの充実を急いでいる。一方、住民にはコミュニティの一員として、介護等の問題を理解し、協力しあうといった役割が期待される。

住民参加の活動は、戦後の公衆衛生における環境衛生問題の解決や、疾病予防対策に取り組むといった地区組織活動の歴史に見ることができる¹⁾。長寿社会における様々な健康問題を抱える現在、住民は地域ケアの一員として、問題意識を高め協力するといった役割を期待される。その住民が参加する地区組織活動は、在宅療養者を支える機能の一つとして注目されると考える。F市保健推進員活動は、発足当時から市民の健診受診率の向上や健康に関する知識の啓蒙など、公衆衛生意識の推進に協力するといった行政の補佐的な役割を担ってきた。しかし、その一方で、保健推進員は、体操グループを作り、配食サービスを実施するなど、地域の中で自主的な活動も展開してきた。このような保健推進員活動を含めた地

区組織活動は、地域ケア体制の一員である住民を、支援する活動として位置づけられている²⁾。

長寿社会における健康で幸福な生活の実現と、介護を含めた健康問題を解決するために、地区組織活動の持つ機能を明らかにし、その支援方法についての検討が必要と考える。

地区組織活動に関する先行研究は、活動実践報告が多く、その代表的な研究は、活動事例を紹介し、住民参加や主体性の重要性について言及しており^{3) 4)}、提供者側からの指摘が多い^{5) 6)}。しかしながら、参加者である住民側の視点から、地区組織活動の意味を考察した研究は少ない。健康な暮らしと生活の質を高めるための地区組織活動の意義を考察するために、参加者である住民側からの評価が大切な視点になると考えられる。

II. 研究目的

本研究は、F市における保健領域での組織的な取り組みをしている保健推進員活動（以下、保健推進員活動とする）において、保健推進員が、どのような意味づけを獲得したかを考察することを目的とした。

III. 研究方法

1. 研究組織と地域概要

F市は農業地帯の中核都市で、人口が約7万人である。保健推進員活動は昭和48年に始まり、保健推進員は、住民から行政区長に推薦され、市長より委嘱された。当初の目的は、地区の組織をもとに健康づくりを推進するこ

1)、2) 日本赤十字看護大学

3) 聖隷クリストファー看護大学

とであった。その後、市街地の人口増加に伴い定員が増え、第11期(平成5-6年)は348名になった。「自主的な活動」をめざして、保健推進員連絡協議会を設立し、下部組織として21の地区保健推進員連絡協議会が設置された。活動内容は、市職員の保健婦が企画した研修事業に加え、活動予算がついた地区ごとの自主企画が加わるようになった。

2. 対象および研究方法

1) 研究対象

保健推進員活動の成員で、2期4年(任期2年)以上の活動経験を持つ16名の女性である。

2) 研究デザイン

本研究は、保健推進員活動において、その成員が、何を経験し、どのような意味づけをしたかについて明らかにしようとした、質的な因子探索型研究である。

3) データの収集と分析

データ収集は、予備調査(1995. 6/26-7/8内2日間)、1回目のインタビュー(1995. 7/20-8/28内7日間)、2回目のインタビュー(1995. 10/2-10/19内13日間)を実施した。一人につき家庭訪問による半構成的な面接を2回ずつ実施し、1回の面接に要する時間はおよそ1時間とした。

データの分析は、インタビュー内容を逐語記録し、コーディングを繰り返した後、活動体験の視点から、次に活動の場から、さらに意味づけの視点からカテゴリー化し、その関係性を検討した。

信頼性と妥当性については、1回目の分析結果を対象者本人に確認し、さらに、分析全体について地区組織活動を対象に質的研究をした複数の専門家よりスーパービジョンを受けることで確保するよう努めた。

3. 用語の説明

保健推進員活動：地区組織活動の保健領域での住民の組織的な取り組み。市長からの委嘱形態をとり研修や相談事業などの役割を持つが、自主・企画・運営の内容もその活動に含む。

活動の場：活動の提供者である市(行政・保健婦)と住民側が協調し、健康問題などを解決したときに作り出される心のつながりを含めた共有空間⁷⁾。保健推進員がその活動を展開したときに形成されるもの。

IV. 結果

分析の結果、活動体験・活動の場・意味づけの各段階の視点別に12の活動体験と、5つの活動の場と、2つの意味づけの側面『発見の喜び』『関わりの中から得られる充実感』が抽出された。

ここでは、1. 対象者の特性、2. 獲得した5つ活動の場、3. 活動の場の意味づけ、について述べる。

1. 対象者の特性

対象者は16名は、50~60歳代が15名を占め、70歳以上が1名であった。また、4名が家以外での就職経験(事務職、教職)があり、12名は農業が6名、他の自営業が3名であった。また、保健推進員以外の活動経験のある者が9名、無い者が7名であった(表1)。

表1 対象者の特性

No.	年齢	任期	職業経験	世帯構造	介護経験	活動経験
1	50	4	農業	3世代	あり	なし
2	50	3	農業	その他	あり	なし
3	50	2	農業	3世代	あり	なし
4	60	3	主婦(自営)	夫婦のみ	あり	なし
5	70	10	農業	単独	あり	なし
6	60	2	事務職	夫婦のみ	なし	なし
7	50	11	自営	夫婦と未婚子のみ	なし	なし
8	60	3	事務職	夫婦のみ	なし	あり
9	60	4	教職	3世代	なし	あり
10	60	2	事務職	3世代	あり	あり
11	60	4	農業	3世代	なし	あり
12	60	2	主婦	3世代	あり	あり
13	60	2	農業	3世代	あり	あり
14	60	11	主婦(自営)	3世代	あり	あり
15	60	3	主婦	単独	なし	あり
16	60	4	農業	3世代	あり	あり

任期：保健推進員の任期

活動経験：保健推進員以外の活動経験

その他：夫婦・義弟

2. 獲得した5つの活動の場

保健推進員は、5つの活動の場を獲得していた。ここでは、代表の事例に基づいて説明する(表2)。

表2 保健推進員活動の体験から獲得した場と意味づけ

意味づけ	獲得した活動の場	活動体験
発見の喜び	健康に関心を 持つ場	①健康観の変化 ②セルフケア能力の獲得
	知識を獲得す る場	①疾患の理解 ②介護の学習
	関わりの中 から得られ る充実感	①思い出を共有する仲間 になる ②信頼しあう仲間になる
様々な人とふ れあえる場	広く認められ る場	①住民の理解を得る ②地元名士の仲間入り ③家族の評価
	様々な人とふ れあえる場	①知り合いが増える ②市の職員との交流 ③地域の様子がわかる

1) 「健康に関心を持つ場」

「健康に関心を持つ場」は、〈健康観の変化〉〈セルフケア能力の獲得〉の2つの活動体験より構成される。保健推進員の健康への態度が変化し、保健行動の実践に結びついた場である。〈健康観の変化〉は健康で暮らすことを、当たり前を受け止めてきた態度が、保健推進員活動に参加して、変化した体験である。〔事例No.1：農家に嫁ぎ、姑の介護をしながら保健推進員活動に参加。健康であることは当然のことと思ひ、農作業を一人でこなしてきた。「自分の調子が悪いのは、(自己管理が) ああだめなんだあって感じで。……以前は寿命若くて死んでもしょうがないって思っていたが、今はそう思わない。……その辺も、保健推進員やってるためにかなあって。〕〈セルフケア能力の獲得〉は、本人や家族の健康を振り返り、受診行動に結びついたりといった態度を変化させ、保健行動の実践をした体験である。〔事例No.7：戦前の大農家に嫁ぎ、夫の死後初めて地域活動に参加。保健推進員になる。自己管理の大切さに気づき、それを実践している。「自分で判断して、それが勉強しての成果だあって思うのね。……自分の身体のことを自分で感じ取らなくては。……〕

2) 「知識を獲得する場」

「知識を獲得する場」は、〈疾患の理解〉〈介護の学習〉の2つの活動体験から構成される。保健推進員が知識を獲得し、病気や介護問題について、再認識した場である。〈疾患の理解〉は、保健推進員活動の研修参加の機会に獲得されたもので、健康管理・障害や病気についての再認識した体験である。研修参加は保健推進員の役割であり、役割意識を持って能動的に研修に望み、認識を変化させている。〔事例No.4：自営(大工)で、姑がいる間は外へ出れず。研修で学び、食事の大切さについて認識を新たにされた。〔(保健推進員を) 引き受けて良かったね。(健康に関する知識を) それまで知らなかったんだから。……(一日の食品の摂取を) 今日はいくつ食べたかなとね。思い出すんだよね。〕〈介護の学習〉は、保健推進員を対象に、特別養護老人ホームの看護婦・寮母・栄養士等の専門職から学ぶ体験学習である。ロールプレイ体験や、介護経験のある保健推進員の話聞くなど、関心はあっても人ごとであった介護問題を、自分の事として考えるきっかけとなった体験である。〔事例No.3：民生委員を兼任する。「今は元気だけれど、祖母が倒れたら学んだことをいかしたい。〕

3) 「友人を獲得する場」

「友人を獲得する場」は、〈思い出を共有する仲間になる〉〈信頼しあう仲間になる〉の2つの活動体験から構成される。保健推進員同士が、活動体験を共有し新しい友人関係を築く場である。〈思い出を共有する仲間になる〉は、地区での保健推進員活動(21の下部組織である保健推進員連絡協議会のうちの一つを指す。地区会長のもとに10~15名の保健推進

員が組織される。)において、保健推進員同士が協力して地区行事を遂行した時に得られた体験である。行事の計画・実施の過程で、苦労を共に分かち合うといった共通の思い出を作り、仲間になった体験である。〔事例No.3：農家をしてながら、長い介護を終えて、保健推進員になった。「出会いがうれしかったね。……たまたま、地区の会長が私で、(初めての経験で自身が無く) 両方からつかえ棒がないとどうしようもなかったから。だから、みんな協力してくれて(研修会に誘い合ったり、アイデアやできることを提供し合ったりと、頼りないリーダーを支えてくれた)。……最初は重荷だったけれど、(今は) 良い思い出になったね。〕〈信頼しあう仲間になる〉は、地区での活動体験を積み重ねて、保健推進員同士が、同じ気持ちで心を開いて話し合える仲間になった体験である。〔事例No.11：民生委員でもあり、農業を営みながら保健推進員を継続している。この地区では、2年に1度、地区の保健推進員だけで一泊の研修(自費)を持ち、交流を深めている。「……心を開いて話をして、ワイワイするってのがいいんだろうね。〕

4) 「広く認められる場」

「広く認められる場」は、〈住民の理解を得る〉〈地元名士の仲間入り〉〈家族の評価〉の3つの活動体験から構成される。家族からの評価を得て、地域の住民から保健推進員として認められ地元の名士の仲間入りをするなどの、地域社会におけるお墨つきを獲得した場である。〈住民の理解を得る〉は、保健推進員活動での住民の協力と理解を得られた体験である。〔事例No.13：自営業の主婦。世話好き。区長に推薦されて保健推進員になった。「みんな、ご近所だから今までのつきあいもあるし、協力的。……保健推進員になって一人暮らしの人とも声掛け合えるおつきあいができるようになった。……みんなに、私がいなくてとまらないうって言われて、その気になってんの。……〕〈地元名士の仲間入り〉は、保健推進員という役職を得て、区長や第三者に認められた体験である。〔事例No.8：公務員を退職して、保健推進員の地区会長になり、地区での足場ができた。「退職したばっかりだったけれど……やっぱりね、保健推進員の地区会長として、地域の振興会という役職の集まりにもでられたしね。……これも保健推進員してたからかなってね。〕〈家族の評価〉は、家族から保健推進員活動を一生懸命していることを評価された体験である。〔事例No.9：退職後、ボランティア活動をしてながら保健推進員にもなった。「家族にもね、おばあちゃん一所懸命だねって、ほめられるんだよ。……〕

5) 「様々な人とふれあえる場」

「様々な人とふれあえる場」は、〈知り合いが増える〉〈市の職員との交流〉〈地域の様子が変わる〉の3つの活動体験から構成される。保健推進員活動に参加することでそれまで関わり合うことのなかった多くの人たちと知り合えた場である。〈知り合いが増える〉は、保

保健推進員になって、地域の多くの人と知り合いになれた体験である。〔事例No.7：自営業と姑の介護で、忙しくしていた。「同じ部落に住んでいても、一年に一回も顔会わせないときあるでしょ。健診申し込み調査に行くと、必ず会えるものね。……」〕〈市の職員との交流〉は、それまであまり関わりのなかった市の職員と親しく話すなどの機会を得たという体験である。〔事例No.4：自営（大工）の主婦。保健推進員は順番なので引き受けた。「保健婦さんとか役所の人は堅いって言うか、窮屈な気持ちしていたのね。……（保健推進員になってから）保健婦さんだけでなく、役所の人たちにね親しく聞いたり話したりできるようになった。……〕〕〈地域の様子〉は、保健推進員活動をとおして、地域で暮らす人の様子が今まで以上にわかるように成った体験である。〔事例No.10：病院事務と家庭で忙しく、あまり地域のことを知らなかった。「地域を回って歩くとお年寄りがいっぱいいたり、健診のことを知らなかったり。……どの家でどんな問題があるか、わかるんですよ。〕〕

3. 活動の場の意味づけ

5つの活動の場「健康に関心を持つ場」「知識を獲得する場」「様々な人とふれあえる場」「友人を獲得する場」「広く認められる場」から、2つの意味づけの側面『発見の喜び』『関わりの中から得られる充実感』が抽出された。

1) 『発見の喜び』

『発見の喜び』は、「健康に関心を持つ場」「知識を獲得する場」から構成されていた。保健推進員活動に参加し、様々な人との出会いや新しい知識・情報を得て関心を持つといった体験からの、わくわくする喜びを意味している。新たな社会とつながり持ち、人・知識・場所などの出会いと、学習の喜びの意味を持っていた。

2) 『関わりの中から得られる充実感』

『関わりの中から得られる充実感』は「友人を獲得する場」「広く認められる場」「様々な人とふれあえる場」から構成されていた。保健推進員活動に参加し、チームワークを体験し、信頼関係を築きあげ、保健推進員同士や地域住民と関係を深める体験をしている。さらに、活動の実績を認められるなど、多くの人々との相互作用をとおして、充実感を得るという意味を持っていた。

V. 考察

対象者が、保健推進員活動で獲得した体験から、5つの活動の場と2つの意味づけが明らかになった。獲得した活動の場からみた保健推進員活動の持つ特徴を、1. 保健行動を促す活動の場、2. 自己を再確認する活動の場、の視点から考察する。

1. 保健行動を促す活動の場

「健康に関心を持つ場」「知識を獲得する場」は、対象者が担当地区で健康に関する行事や研修に参加すること

で、疾患や健康に関する知識と理解を深め、健康についての意識を高めてセルフケア能力を獲得したことを表している。保健行動を規定する要因には、知識の獲得以外に主観的な病気の脅威や効果の認識などが報告され^{8) 9) 10) 11)}、行動変容は難しいと指摘される。「健康に関心を持つ場」は、健康について意識し自分に引きつけて考え、それぞれの主観的な認識に働きかけるといった、保健行動の実践に結びつく態度の変容と、行動の実践が認められた。対象者は、健診申し込み調査や研修会・健康相談時のお世話などの活動体験を重ね、「知識を獲得する場」にみられた病気や介護問題を自分にも関係があることとして捉える、認識の変化が存在したと考えられる。

こうした主観的な認識に働きかけることが、行動変容を可能にすると指摘される^{12) 13)}。保健行動を変容させるための教育プログラムに関する研究によれば、個人の経験を共有し勇気づけられるといったグループによる学習体験をとうして保健行動の変容が強化される^{14) 15)}としている。日本でも、グループによる学習効果は、「健康学習」と名付けられ、地区組織活動において実践され、その効果についての報告がある^{16) 17)}。保健推進員活動には、健康に関する研修や地区での健康講座の活動計画の立案や実施など、相互に話し合い交流する場が含まれている。そこでの交流体験が、グループ学習の機会となり、保健行動の変容に影響を与えたと考えられる。

2. 自己の存在を再確認する活動の場

「友人を獲得する場」「広く認められる場」は、保健推進員の研修会や友人を得て、担当地区の住民や区長・リーダー達など多くの人々に、広く認められることをあらわしていた。

対象者は、年齢50～60代が多く「嫁役割・介護の終了」「孫育て終了」「退職」といった役割を終了し、ひとつの節目を迎えていた。このような50～60代の成人は、社会的地位や経済的基盤に変化が生じる「人生の移行期」¹⁸⁾を迎えている。これまでの生活上の役割を喪失し、新たな不安を抱く年齢^{19) 20) 21)}といわれる。また、専業主婦群は職種群に較べて、中年期における自我同一性の変化の中で、打ち込める活動を家庭外に求める指向性が特徴的に見られたと報告される²²⁾。つまり、中高年期女性は、自己の存在を再確認する必要性を感じていると思われる。対象者は、「様々な人とふれあえる場」において、保健婦など市職員や医療・保健・福祉関係者、住民など今までには出会えなかった人々と出会う体験をしている。保健推進員という役割と位置づけが、多くの人々との出会いを可能にしていた。対象者が、保健推進員という地域社会における公的な役割を委嘱され、母・妻以外の新たな役割を獲得していることは、自己を再確認するひとつの機会になったと考えられる。

また、保健推進員は、任期2年の間、連絡協議会組織の中で、会議による合議制の体験や、予算範囲内での自

主企画の運営を体験する。自主企画行事の実施にあたっては、町内会・農協婦人部・食生活改善推進員など、他の組織や地域住民の理解と協力を求めることが必要になる。対象者は、保健推進員活動に参加することで、多くの人々との相互交流を体験していた。『関わりの中から得られる充実感』として意味づけられるこれらの体験も、対象者が自己を再確認することに影響していると考えられる。

こうした対象者が獲得した場合は、『発見の喜び』『関わりの中から得られる充実感』と意味づけられ、保健行動を獲得し、自己の存在を確認するといった、保健推進員活動の持つ特徴的な機能を表していると思われる。

VI. おわりに

保健推進員が、保健推進員活動においてどのような意味づけを獲得したかを明らかにするために、保健推進員16名を対象にインタビューによる質的な因子探索型の研究を行った。その結果、5つ活動の場と2つの意味づけが抽出された。保健推進員活動は、保健行動を獲得し自己の存在を確認するといった機能を持つことが考察された。看護専門職は、保健推進員活動の持つ機能を理解し、地域ケア体制の一員としての住民支援を検討していくことが必要と思われる。

本研究は、対象が16名と限られたため、今回の結果を一般化するには限界がある。従って、今後、対象者を増やしたり、他の地区組織活動を対象に研究する必要性がある。

謝 辞

研究にあたり、ご理解とご協力を戴いた、F市と保健推進員の皆様に心から感謝いたします。

なお、これは1995年度聖路加看護大学大学院看護学研究科に提出した修士論文の一部に手を加えたものです。また、この一部は、第53回日本公衆衛生学会にて発表しました。

文 献

- 1) 島内憲夫 他：母子保健のための地域組織活動の活性化と強化に関する研究—その1—、厚生省心身障害研究、298-302、1991.
- 2) WHO島内憲夫訳：ヘルスプロモーションWHOオタワ憲章、48-59、垣内出版、1990.
- 3) 宮坂忠夫：地域保健におけるCommunity Organizationと住民参加、民族衛生、42(5)、271-289、1976.
- 4) 久常節子：地域保健における住民の主体形成と組織活動、民族衛生、48(2)、70-93、1982.
- 5) 中村弘子：住民参加を展開するための要因の検討（第1報～第3報）、第54回日本公衆衛生学会抄録集、581-583、1995.
- 6) 中村安英：住民参加指標を用いたボランティアのプロジェクト活動評価、日本公衆衛生雑誌、57(11)、809-812、1993.
- 7) 丸地信宏：保健婦活動の見直しと理論の実際、155-158、医学書院、1981.
- 8) 藤内修治 他：地域住民の健行動を規定する要因。日本公衆衛生雑誌、41(4)、362-369、1994.
- 9) 伊津之孝 他：喫煙行動に関する健康行動・健康意識の分析、日本公衆衛生雑誌、37(5)、559-567、1990.
- 10) 溝上哲也他：都市住民の健康診査受診行動、日本公衆衛生雑誌、39(5)、269-277、1992.
- 11) 森尾真介 他：地域住民のガン検診受診参加に関する研究、37(8)、559-567、1990.
- 12) 溝上哲也 他：都市住民の健康診査受診行動、日本公衆衛生雑誌、39(5)、269-277、1992.
- 13) 森尾真介 他：地域住民のがん検診受診参加に関する研究、日本公衆衛生雑誌、37(8)、559-567、1990.
- 14) Rahal, R. : Evaluation of Group Promotion with Community Dwelling older Women, Public Health Nursing, 1(11), 38-48、1990.
- 15) Utz, S. W. : A Community Smoking Cessation Program, Public Health Nursing, 11(5), 291-299、1994.
- 16) 松下 拓：健康学習とその展開、54-58、頸草書房、1990.
- 17) 前掲5)
- 18) Wappner, S., 山本多喜二訳：人生移行の発達心理学、297-303、北王子書房、1992.
- 19) 和田修一、犬塚先他：中高年齢者の就労・引退：その理由と老後生活への影響、社会老年学、25、44-60、1987.
- 20) 宮城明子 他：中高年婦人におけるライフストレスの実態、母性衛生、27(4)、800-808、1986.
- 21) 宮中文子 他：中高年女性（祖母）の子育て参加の実態と心理的健康との関連について（第1報）、老年社会学、17(1)、21-29、1995.
- 22) 堀内和美：中年期女性が報告する自我同一性の変化、教育心理学研究、41(1)、11-21、1993.

Meaning of participation of members in the health-promotion activities of F city in Japan

Akiko Hoshino

(The Japanese Red Cross College of Nursing)

Hiroko Naruki

(The Japanese Red Cross College of Nursing)

Sumiko Iida

(Seirei christopher College of Nursing)

Sixteen volunteers who participated in the health-promotion activities of F city in Japan, were asked semi-constitutional questions to study what the volunteers acquired from participating in the health-promotion activities. The results showed that Participants were found to have acquired five different areas: (1) the member became interested in health-related matters; (2) the member acquired healthy behaviors; (3) the member gained many new friends; (4) the member had a close partner; and (5) the member was highly regarded by others. Volunteering in health-promotion activities meant two things to the participants: (1) the volunteer felt fortunate to be able to study health and health behaviors; and (2) the volunteer had a sense of fulfillment and gained friendships, partnership and confidence. These five areas that health-promoting members acquired through their interactions with the people in the community, were beneficial for the members own health behavior and for their own recognition of the need to set a personalized standard that is necessary for the health-promotion activities. Nurses who work with these members must be aware of these matters so that the members can perform their health-promotion activities effectivety.

Key words

community organization health-promotion health behavior own recognition